

世界海洋フォーラム (World Ocean Forum) 2025への参加

2025年10月22日～24日

■開催概要

2025年10月22日から24日まで、韓国海洋漁業省、釜山市及び日刊釜山ニュースが主催し、韓国海洋産業協会が運営する世界海洋フォーラム (World Ocean Forum) 2025 が釜山市内のホテルで開催された。

World Ocean Forumは、韓国で2007年以来毎年開催されており、第19回目となる今回は、「不確実性の波を乗り越えて」を開催テーマとし、海洋産業関係者、政府代表、研究者等が参加した。個別セッションのテーマは、海洋交通の他に、海洋生物、クルーズ、漁業、ブルーエコノミー、海事金融、造船、国際海洋政策等と多岐にわたっている。

このうち23日に開かれた海洋交通セッション「グローバルな海上輸送ネットワークの確保のための戦略」において、主催者からの招待により、日本からは当研究所の藤崎主席研究員・研究統括及び日本海事センター（JMC）の中村上席研究員がそれぞれ基調講演及び講演を行うと共に、パネルディスカッションに参加した。

なお、当研究所及びJMCは2024年4月に、韓国海洋水産開発院（KMI）と高麗大学海事法研究センター（KUMLC）とMOUを締結して交流を開始した。今回のフォーラムでは、KUMLC所長のKim教授が企画委員長を務め、KMI等が協賛している。



藤崎主席研究員の基調講演の様子

■藤崎主席研究員による基調講演の概要

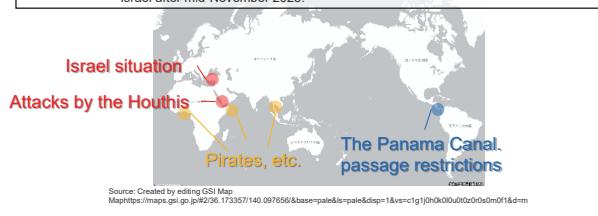
「国際海上輸送ネットワークの戦略的確保に向けて」（原文は英語）と題して、当研究所の共同研究調査「我が国経済を支える国際海上輸送ネットワークの戦略的確保」（2024年度～）に基づき、基調講演を行った。我が国の海事産業の概況とシーレーンのリスク例を紹介しつつ、外航海運、造船、物流、港湾、船員、船舶及び船員、外交、防衛及び海上保安の各視点で想定等がされる課題を共有した。併せて、2024年に米国で当研究所が共催した「経済安全保障のためのシーレーンの安全確保とサプライチェーンの強靭化シンポジウム2024」の議論から関連する内容を抽出して紹介した。

■パネルディスカッション

藤崎主席研究員は、「韓国と日本ではリスクが共通すると思われるが、日本が意識するリスクは何か」との質問を受け、これに対し、「気候変動、海賊と国際紛争が国際海上輸送ネットワークの自由と安全に不確実性をもたらしている。パンデミックとサイバーセキュリティの問題も日本は経験した。これらに備えた必要な対策を検討するため、当研究所でこの共同研究調査を実施中である」旨を改めて答えた。

CURRENT SITUATION AND ISSUES ABOUT SEASLOC Examples of Issues and Risks to Sea Lanes

Climate Change	Panama Canal:	Restricted passage due to low water levels from El Niño drought.
Pirate	Maracaibo and Singapore Strait, Somalia, West Africa etc.:	Ongoing piracy risks.
Dispute	Red Sea (Suez Canal, Bab el Mandeb):	Houthi threats threaten vessels in response to Israel after mid-November 2023.



藤崎主席研究員の発表資料



パネルディスカッションの様子（左からHMM海洋サービス株式会社 CEO Kim氏、藤崎主席研究員、中村主任研究員、Sungkyul大学 Han教授、HMM株式会社研究開発チームリーダーKim氏、韓国海洋大学Kim教授、韓国海運協会東南地域本部長Kim氏）